

from **NOW ON** KANSAI

ひとをみつける、ひととつながる
関西広域連合のビジネス情報紙



高齢者が生き生きと働く企業の 働き手のニーズに寄り添う取り組みとは

～湊興業株式会社



▲同社代表取締役の土橋弘氏(79歳)



▲さまざまな取り組みにより高齢者が生き生きと働ける場が実現

高齢者が生き生きと働く企業の 働き手のニーズに寄り添う取り組みとは

人材確保が難しい業務に 高齢者を積極的に受け入れる

65歳まで働ける企業が増え、70歳までの就業機会確保に向けた取り組みが進められるなど、日本の高齢者雇用は就業率・就業者数ともに増加傾向にある。その一方で、体力や生活背景といった個人差への対応がなされず、働きたくても働けない高齢者が少なくないのも現状だ。こうした中、和歌山市の湊興業株式会社では、定年を迎えた労働者の視点に立った労働環境を整えることで、高齢者が生き生きと働ける場作りを実践している。

同社は、大手製造業の産業廃棄物の収集・運搬、工場敷地内の緑地管理を請け負う企業として、1972年に創立。業務の

●プロフィール

湊興業株式会社

昭和47年(1972年)創立。製造業の工場から出る産業廃棄物の収集・運搬及び清掃、工場敷地内の緑地の管理を請け負う。60歳以降の従業員の短時間勤務制度を導入するとともに、従業員の作業負担軽減、業務の効率化を目指して2020年頃から緑地管理業務の機械化を推進。緑地管理業務におけるシェア拡大にも積極的に取り組む。

〒640-8404 和歌山県和歌山市湊2-7-12

内容は年々変化し、現在では県所有の緑地や公園などの除草作業・清掃といった緑地管理の割合が増えている。こうした業種は一般的に3Kと形容されることも多く、年齢を重ねた人にとってはかなりきつい仕事だが、同社のパート社員含む



▲同社取締役副事業所長の日野博行氏(63歳)



▲乗用草刈機でスピーディーに刈っていくAさん(68歳)



▲農作業用の草刈り機を活用し、作業するBさん(78歳)



▲安全性を考えて厳選された機械



▲同社取締役事業所長の萩原淳次郎氏(68歳)

従業員の平均年齢は67.2歳と、高齢者の継続雇用・新規採用を積極的に進めている。

時短勤務制度を導入して 働きやすい環境を整備

厳しい仕事とのイメージから若者が敬遠しがちな業務を主に担う同社では、安定した人材確保が非常に難しく、事業を継続するために高齢者雇用に積極的に取り組むようになった。同社の周辺エリアの住民は、企業で定年を迎えた層の割合が高く、就労意欲が盛んな人が多いことも、こうした動きを後押しする要因となったそうだ。

高齢者の雇用促進・人材活用にあたり、同社では勤務体系の見直しに取り組んだ。これまでフルタイム勤務が基本であったが、60歳以降の従業員に1日1～3時間の短時間勤務制度を新たに導入したのだ。「ご高齢の方はフルタイムを望んでいないんですよ。フルタイムでは体力が持たないんです」と、同社取締役事業所長の萩原淳次郎氏。この制度の導入により、短時間でできる仕事、無理なく続けられる仕事を求める定年を迎えた層のニーズに対応できる労働環境が実現した。パート社員でも定期昇給があり、業績給を支給するなど、やりがいの後押しする給与体系、さらに健康診断の義務化や労災保険などの福利厚生も整っている。

作業の機械化を推進して 業務の負担軽減・効率化を図る

勤務体系の見直しとともに、同社が積極的に推進してきたのが業務の機械化だ。緑地管理業務は体力的にきつい仕事を中心となるため、必然的に従業員の負担軽減、仕事の効率化が求められる。現在は、自走式の草刈り機や芝刈り機、法面ラジコン草刈り機などを導入しており、さらに全自動の芝刈り機や、枝などを粉碎するウッドチップパー、集草用のパッカー車などの導入も検討している。

導入する機械の検討にあたっては、現地で実際の業務の様子を確認し、ミーティングを重ね、機械の展示会へも熱心に

通ったそうだ。自走式の草刈り機は、本来は農作業用として市販されていたが、「これは安全に使いそうだな」と考えて1台購入。「現場の従業員は機械の導入に懐疑的でしたが、使い始めると効率よく仕事が進むことを実感して、使用範囲が広がっていききました(萩原氏)」

同社では、事前に小石を撤去するなどして、機械が入りやすい環境を整備してから作業を行うことで、一層の業務効率化と安全の確保を図っている。高所作業を伴う木の伐採などは、機械を導入した作業で対応できない場合もあるが、従業員にリスクのある業務は請け負わない、または外注する等して対応している。

「作業の動画を見ていただくなどして、当社のことをご理解いただいている顧客から、自分たちでできることを受注します。皆さん、当社のスタッフの働きぶりに感心されていますよ(代表取締役・土橋弘氏)」

年2回の定期面談を実施して 従業員の状態をしっかり確認

同社では年に2回、すべての従業員を対象にした定期面談が実施される。仕事内容や勤務体系について相談し、業務に関する悩みや意見などを吸い上げる機会にもなっている。パート社員に関しては、基本的に年齢の上限を設けていない。自分に合ったペースで働けることから、多くの従業員は雇用の継続を希望する。

「強制的に雇用を終わらせることは基本的にはありません。話し合いをして、皆さん合意の上で退職されます(土橋氏)」

ただし、加齢による体力の衰えで自力での通勤が難しくなってきた場合など、安全を考慮して退職を勧めることもあるそうだ。

従業員の多くは、企業での長年の勤務経験があり、チームワークなど円滑な業務遂行に必要なスキルを持っていることから「社内の雰囲気はとても良いですね」と、取締役副事業所長の日野博行氏。中堅や若手社員とのコミュニケーション

も良好で、風通しの良い企業風土も手伝って、新しく入ってきた高齢の従業員も自然に集団に馴染んでいくそうだ。中には、専門的な知識や技術を持つ従業員も在籍し、壊れた機械を自分たちで修理するだけでなく、修理や整備に使用する道具も自分たちで改善し、作業効率を考えた道具の保管体制を整えるなどかなり本格的だ。

高齢者の実情に対応した働き方が 生き生きと働ける場につながっている

こうしたさまざまな取り組みにより「結果として高齢者の雇用が増えていきました」と土橋氏。高齢の従業員の多くは年金を受給しており、生活のために必ずしも長時間の労働を必要とする訳ではない。そうした従業員のニーズに合わせた働き方に対応することで、従業員一人あたりの就労時間は短くなるが、シフトをうまく調整することで業績を保ちつつ、高齢者でも生き生きと働ける場を実現している。

その一方で、全員が中途採用かつパート社員は高齢者のため、平均勤続年数は4年7か月と短く、常に求人を意識する必要があるという。欲しい時に集まらないのに、応募がある時は大量にあるという状況も時にはあるものの、現在のところ求人は、県の高齢者雇用センターからの応募を除いては、従業員等からの紹介を基本としているそうだ。一般に広く募集をかけると多くの応募が期待できるが、採用にコストがかかるからというのが、紹介を中心にする理由。自分たちの知っている人からの紹介なら、業務への適性などもある程度わかった上で採用できるからだ。

高齢者の持つ優れたスキルを より多くの場面で活かしたい

事業を継続させるために、業務の幅を広げていくことはさまざまな業種に共通する課題と言える。同社でも、植物が成長



▲高齢者のスキルの活用について語る土橋氏

する限りニーズがなくなる緑地管理を生業としているものの、主な請負先からの発注だけに頼っている状態はリスクが高いと言わざるを得ない。新しいニーズの開拓が必須で、現在は自治体の仕事に加えて、個人宅の庭の管理などにも徐々に業務範囲を広げているところだ。さらに、高齢者雇用の可能性をさらに拡大させるために、いっそう機械化を進めて「自分たちにできること」の幅を広げるなど、まだまだ多くの課題が残っているのが現状だ。

「周りには定年後も働きたいと考えている人がたくさんいます。しかし、フルタイム勤務やキャリアを求めるなど雇用側の条件が厳しく、ミスマッチが発生しているのが現状です。高齢者の持つスキルを活かし、やる気を削ぐことがないよう、ニーズに寄り添う場の提供が必要です(萩原氏)」

同社では、一般的に3Kと言われる仕事に、高齢の従業員が楽しく取り組んでいる。定年を迎えた人たちにとって、生きるための収入を得るために働くというよりも、仕事を続けることが生き生きとした毎日につながるのだろう。そうしたニーズをしっかりと汲み取っていくことで、より多くの業種、企業で高齢者が活躍できるに違いない。

「関西ポテンシャルマップ」では関西広域連合域内の【伝統産業(伝統工芸品)】、【大学、工業系公設試験研究機関】等5つの分野で産業の強みを可視化しています。ぜひご覧ください。



関西ポテンシャルマップ

広域産業振興局では関西の成長の方向性を示した「関西広域産業ビジョン」を策定しています。万博開催年前後における関西広域連合の取組をまとめた「アクションプラン」、関西広域連合構成府県市における特長的、先進的、または注力している事業や取組をまとめた「構成府県市リーディングケース」もぜひご活用ください。



関西広域産業ビジョン

関西広域連合 広域産業振興局NEWS

メルマガ会員登録中!

ぜひ、ご登録ください(登録無料)

kansaisangyotouroku@qt15.asp.cuenote.jp



関西広域連合 広域産業振興局 公式Instagram

イベント情報発信中です。

フォロー・いいねをお願いします!

@kouiki_sangyo



発行元/関西広域連合 広域産業振興局
〒559-8555 大阪市住之江区南港北 1-14-16

大阪府商工労働部 商工労働総務課内
TEL06-6614-0950 FAX06-6210-9481
E-mail sangyo@kouiki-kansai.jp

URL <http://www.kouiki-kansai.jp/koikirengo/jisijimu/sanshin/index.html>

さあ、関西の時代へ



関西広域連合
UNION OF KANSAI GOVERNMENTS